

人権・平和・環境

あしだがわ

発行

南部生涯学習センター
福山市沼隈町草深 1889 番地 6
(沼隈支所3階)
TEL 980-7713
FAX 987-2382

E-mail: nanbu-syougai-gakushuu@city.fukuyama.hiroshima.jp

福山市ホームページ (URL:<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/>) から「あしだがわ」で検索!

おとぎぞうし

~トーク&LIVE~

センター人権・社会教育活動事業

~未来に伝えたい

大切なこと~



プロフィール

尾道在住の竹本信也さん、倉光宏嘉さんによるフォークデュオです。

9年前から備後地域のライブハウスで、演奏活動を始めました。サイモン&ガーファングルの楽曲のコピーを中心に、70年代、80年代のフォークソングやニューミュージックをレパートリーにしています。

4年前からは、福山市内のコミュニティセンターや公民館等で人権問題学習等の地域学習会でトーク&LIVEを行っています。その際には反戦・反核・反差別がテーマのトークとそれにちなんだ楽曲を演奏しています。

とき 2012年10月19日(金)

19時30分~21時

ところ 福山市高島公民館

(福山市田尻町 2333-10)

入場は無料です

- ※ 駐車場は係員の指示に従い駐車してください。
- ※ 駐車場に限りがありますので、乗り合わせておこしください。

お問い合わせ：084-980-7713
(南部生涯学習センター)



主催 南部生涯学習センター
高島学区人権学習推進協議会



しかくしょう とう りゆう ひと えいりもくてき のそ ろくおん てんじ かくたい みと
視覚障がい等の理由がある人のために、営利目的を除き「録音」「点字」「拡大」などを認めます。

息子が遺した手紙が つないだこと ～命と愛の大切さを伝えたい～

9月5日（水）熊野公民館にて、人権問題講演会を開催しました。講師には、阪神淡路大震災を語り継ぐ活動をされている加藤りつこさんをお迎えしました。

加藤さんは、1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災で、一人息子の貴光さんを亡くされました。貴光さんは当時、神戸大学2年生でした。強く深い愛情で育てた息子を亡くしてしまった加藤さんは、生きる気力を失ってしまいます。しかしある日、新聞社の女性記者が加藤さんの元に取材にやってきました。そして、



貴光さんが大学入学時に加藤さんに宛てて書いた手紙に注目し、それを記事にしたところ、全国で反響を呼びます。その手紙をミュージシャンの奥野勝利さんが知り、



「親愛なる母上様」という曲が出来上がりました。加藤さんは、貴光さんの手紙をきっかけに、全国各地から講演の依頼を受け、今でも各地で講演

をされています。加藤さんは、「たくさんの素敵の方との出会いが私を生かしてくれた。」「阪神淡路大震災から17年経った今も、新しく息子の名前を記憶してくれる人がいる。生かされた命で社会貢献をしたい。」とおっしゃっていました。

奥野勝利さんとの出会い、講演先で出会ったたくさんの方との出会い、人と人との出会いが加藤さんの生きる力となりました。そして加藤さんは、命と愛の大切さについて、全国各地たくさんの人々に語り続けています。人との出会い、そして命の大切さを深く考えさせられる講演会でした。

親愛なる母上様

あなたが私に生命を与えてくださってから、早いものでもう20年になります。これまでに、ほんのひとときとして、あなたの優しく、温かく、大きく、そして強い愛を感じなかったことはありませんでした。

私はあなたから多くの羽をいただいてきました。人を愛すること、自分を戒めること、人に愛されること…。この20年で、私の翼には立派な羽がそろってゆきました。

そして今、私は、この翼で大空へ飛び立とうとしています。誰よりも高く、強く、自在に飛べるこの翼で。あなたの、そしてみんなの希望と期待を無にしないためにも、力の続く限り飛び続けます。

それでは、くれぐれもおからだに気をつけて、また逢える日を心待ちにしております。最後に、あなたを母にしてください。感謝の意をこめて。

貴光さんが加藤さんに宛てて書いた手紙（抜粋）

ふくやま人権大学 2012年度夏「共に生きる」

開講式 記念講演

- とき 10月6日（土）13：30～15：00
ところ 人権交流センター（福山市佐波町262-3）
講師 奥田 均 さん（近畿大学人権問題研究所教授）
演題 「福島差別を考える」
問合せ 人権推進課（TEL：928-1006）
主催 福山市／福山・尾道地域人権啓発活動ネットワーク協議会



- ★入場は無料です。
- ★手話通訳・要約筆記・ワイヤレス補聴器あり。



南部こんなんやるday



南部管内の講座のご案内です。みなさま どうぞご参加ください。

明王台公民館 TEL：952-3511

ヨガで心と脳を健康に！

と き 10月24日(水)
 9:30~11:30
 ところ 明王台公民館
 講師 田中 敬子さん
 持参物 敷物(ヨガマットの代用になるもの、
 ハーフケット可)、掛け物(仰向けで寝るときの保温用)、水分補給の飲み物
 申込み 明王台公民館まで



沼隈図書館 TEL：987-5630

切り絵で作ろう、秋の読書セット！

～紙製のブックカバーと
しおりを作ってみませんか？～

と き 10月28日(日)
 14:00~15:30
 ところ 沼隈図書館
 対象 小学生以上
 定員 15人(先着順)※小学生はおとなと
 申込み 10月17日(水)10:00~
 来館または電話で
 持参物 スティックのり、両面テープ、
 ものさし、はさみ
 参加費 無料



南部生涯学習センター

TEL：980-7714

第30回 城西校区人権学習講座

人のつながりで 福祉と人権のまちづくり

と き 10月17日(水)19:30~
ところ 山手コミュニティセンター

講師 富島喜揮さん

講師プロフィール

1979年(昭和49年)から、広島県東広島市の国立療養所賀茂病院(現 独立行政法人賀茂精神医療センター)に精神保健福祉士として25年弱勤務する。

2004年(平成16年)、四国学院大学福祉学部社会福祉学科に教授として着任。専門は、精神保健福祉。

現在は、香川県の人権・同和対策や隣保館活動をとおして人権・同和対策に関与、香川県教育委員会ソーシャルワーカーの活動をとおして教育現場へのソーシャルワークの普及、精神保健福祉領域では、自殺予防・心の健康づくり対策などの活動をとおして、幅広く精神保健福祉に関与している。

主催：城西校区人権学習講座実行委員会



青年の父

やまもとたきのすけ あしあと たず

山本瀧之助の足跡を訪ねて

【15】指導者にとってヒント満載の本

前回は『地方青年団体』の概要について書いたが、今回は、彼がこの本で具体的に提言したこといくつかを紹介する。

青年団体の活動の拠点として「^{くらぶ}倶楽部」を設置すべきであるとしている。「倶楽部」は青年たちの共同生活の場であり、娯楽の場であり、ここでの交遊で集団意識と連帯意識が育つとしている。また、「倶楽部」は新設の必要はなく、神社・寺・旧校舎の一部を利用したり、教員住宅や消防ポンプ庫に^{ふせつ}附設するのも良いと述べている。現在、旧沼隈郡内の多くの集会所を「倶楽部」とか「クラブ」の名で呼んでいるが、その語源は瀧之助が提言した青年たちの施設名に由来すると考えられる。

「青年団体の娯楽」の項でいろいろな娯楽を紹介しているが、その1つに、瀧之助が考案した「常識カルタ」がある。これは、青年たちが身につける社会常識や公衆道徳などをカルタにしたもので、遊びながら知識が得られると人気があり、1910年（明治43年）100組をセットにして市販されている。

青年団体の格好の事業として「^{ようろうかい}養老会」の開催を提案している。「年2回ぐらい老人を招待し、児童の唱歌などを歌わせ、その後、茶菓子を^{せいねんだんざつわ}出して談話する」内容から見ると現在の敬老会にあたり、明治末期にすでに沼隈で敬老会が行われていたことになる。



養老会の様子

巻末に「^{せいねんだんざつわ}青年団雑話」50話が収録されている。その中には「^{せいねんじつこうひゃっかじょう}青年実行百箇条」「^{こがた}団結と巡回日記」「^{さゆうめい}小形の座右銘」など青年団体指導者にとってヒントとなる事柄がたくさん掲載されている。

執筆：上田 ^{うえだ} 靖士 ^{せいし}（山本瀧之助研究会）

ふくやま子どもフェスティバル2012

広げよう！つながろう！いっぱい笑顔！
～あつまれ！ふくやま（2980）っ子～

とき 11月3日（土）
10:00～15:00

ところ まなびの館ローズコム、
中央公園

（福山市霞町1丁目10-1）



☆みんながつながる作品づくり、
体験、飲食コーナーなど
楽しいイベントがたくさん！



※駐車台数に限りがありますので、
公共交通機関をご利用ください。

主催 ふくやま子どもフェスティバル実行委員会
問合せ 生涯学習課
(Tel.084-928-1243)



ホ～さんのせせき



10月は秋のばらの季節です。ばらは5、6月頃咲くイメージがありますが、秋のばらは一味違った美しさがあります。福山市では、100万本のばらのまちを目指し、市民のみなさんと協働で、ばらを福山市内外に広める取り組みを進めています。東日本大震災から1年半。福山市民として、これからも「ローズマインド」（思いやり・優しさ・助け合いの心）を持ち、被災地の早期復興を願いたいと思います。



折り紙で
ばらを折っています。
結構むずかしい！